静岡理工科大学グループ
2024 御幸町プロジェクト

VOL.2 地域協働センター

産官学鼎談

地域とともに～静岡に心躍る未来を

令和6年、JR静岡駅北口前に静岡理工科大学グループのランドマークとして「御幸町キャンパス」が完成。
地上15階からなるこの御幸町開発ビルの4階から12階に「大学・サテライトラボ」や「地域協働センター」などを新設し、
学園の建学の精神でもある“地域社会への貢献”を目指す。
今回は、産官学連携を成功させるため静岡市の行政や産業支援・振興機関の識者の方からご意見、アドバイスを賜り、
静岡市の未来を拓く教育について語っていただいた。

広告

御幸町9番・伝馬町4番市街地再開発ビル
完成イメージパース

■「御幸町キャンパス」開設への思いと期待

橋本　私ども静岡理工科大学グループは大学、専門学校が6校、日本語学校が2校、それから中学・高校がそれぞれ2校という全部で13の学校からなる総合学園であり、東は沼津、西は浜松まで全県をカバーしています。昨年、創立80周年を迎えまして、令和6年にはJR静岡駅北口前に「御幸町キャンパス」が完成する予定です。

ここには大学の研究教育活動の拠点となる「大学サテライト・ラボ」や、学園全体の教育改革を進める「教育推進室」、企業や各種団体など多様な地域の皆様との交流の場となる「地域協働センター」等を設け、さらに「静岡デザイン専門学校」も鷹匠の校舎から移転して、中心市街地のより一層のにぎわい創出を目指します。13の多種多様な学校をもつ総合学園だからこそできるメリット・価値を最大限に発揮させ、“総合力と多様な教育で、心躍る未来を”　という学園ビジョンのもと地域活性化に貢献したいと考えています。

静岡市企画局 局長
松浦 高之
TAKAYUKI MATSUURA

松浦　市内の高校の卒業生は毎年およそ6500人になります。そのうち市外の大学に出て行く方がおよそ4割。今回、市の中心部に「御幸町キャンパス」ができることは、若者にとって学びの選択肢が増えるという点で本当にありがたく思います。またリカレント（学び直し教育）など、地元に帰ってきても教育を受けることができる仕掛けが増えることもUターンに結びつくと期待しています。

髙橋　「御幸町キャンパス」が完成すると、学生さんや教員、OBなど約1000名の方々が毎日このエリアに集まってきます。商業的にはこの1000名近くの若い方々をターゲットにして店作りをするといった絵が描ける大きな取り組みではないかと思います。

また学問の府といわれる大学が門戸を開いていただけることは地域のため本当にありがたいことです。特に理工系の大学ということで、DX（デジタルトランスフォーメーション）やデータサイエンスといった部分でお力をお借りできれば、静岡がデジタルに強い街になるのではないかと大いに期待しています。

■「地域協働センター」との連携で、静岡の将来を担う人材育成を

橋本　このたび「御幸町キャンパス」内に地域課題解決や産官学連携に取り組むための組織として「地域協働センター」を開設しようと考えています。このセンターが担う主な活動としては、地域ニーズや課題を学園が有するシーズとつないで実践へと展開する共同研究・開発。リカレント教育やリスキリング事業。そして「街づくりと生き方」や「SDGsと技術革新」等をテーマに、行政や地域企業と連携・協働して課題解決を検討・実施する「フューチャーセッション」。さらには、一般市民向け生涯学習講座、小中学生向けの講座、後援会（保護者の会）向けの講座を計画しています。また約8万人弱いる本学園の卒業生を受け入れている、企業等との「共創」による各種事業も考えています。

松浦　これまで静岡市には建築系土木系の高等教育機関がなく、相談先が身近になかったという課題がありました。そこで我々が期待をしているのは、まちづくりに係る人材の供給や日々の相談先、また、地元の企業とのコラボといった様々な面での交流です。

また最近ではワクチンの申し込みをスマホからしていただくといったように、行政の手続きもどんどんオンライン化しつつあります。そこでまず高齢者の皆様が一緒にデジタルについて学んでいく場が必要になっています。一方で、お子さん方に対してはプログラミング教育など、さらにその学習が広がることにも期待をしています。

静岡商工会議所 副会頭
鈴与株式会社 取締役副社長
髙橋 明彦
AKIHIKO TAKAHASHI

髙橋　静岡商工会議所は会員数が1万3000社ほどあり、製造業の数も非常に多いです。その意味では理工科系大学との産学連携に対する期待も大きいです。例えば新しい素材であるとか技術であるとかを、この連携によって生み出し、それを積み重ねることによって静岡の産業の力そのものを底上げしてもらいたいと期待しています。

また、将来の静岡を支える人材育成にも力をお貸しいただきたく思っています。これは小・中・高校生に対して、静岡愛をどう育てていくかというところが課題だと思いますが、子どもたちが静岡のいろいろな企業と触れ合う機会を作っていただきたいと思っています。

橋本　長野のある高校では、地域人養成講座を受けた生徒たちが就職した後、3年間の離職がほぼ0になったそうです。そのような取り組みを今回のこの「地域協働センター」に取り込んでいくと、非常に大きな成果が出てくると思います。これからは学校も企業に入り込み、企業も学校側に入り込んで、一緒になって離職率を少なくさせよう、と協力しあうことが必要になり、それが産学官連携のひとつのポイントになる気がします。

松浦　Uターン就職に結びつけるためには、幼少期・小学生の頃から地元の企業を知るという取り組みが必要という意識で清水の「静岡市こどもクリエイティブタウン　ま・あ・る」を運営しています。子どもたちが、地元企業がどういう思いでお仕事をされているのかということを肌で感じることはすごく大事だと思います。その企業さんについて「ここならっ!」という思いが将来の就職活動に結び付くと思います。

髙橋　高校生のキャリア形成プログラムは、無論良い取り組みではありますが、そのプログラムで触れられる企業は1社、2社程度に留まり、地元への定着、地元企業への就職と言う切り口で見ると決して効果的ではないと思われます。

今、一般社団法人シヅクリさんが行っている「シヅクリプロジェクト」で、中学生から高校生を対象にして、去年は200名、今年は500名の生徒さんが鈴与グループと触れ合い・理解する機会を設けていただいています。それを毎年やれば、高校卒業までに2000人とか3000人とかの生徒さんが鈴与グループに触れることができるわけです。そこに参画する企業が増えれば、本当に多くの生徒さんが「静岡って結構いい企業あるんだよね」というようになってくれると思います。それを静岡理工科大学グループの学校とのコラボという形で広げられないかと思っています。

■社会人教育に求めるのは「本質をつかむ能力」の学び

橋本　我々としては、知識伝達は大学関係者、実践的な教育は専門学校関係者が担うというような新しい組み合わせで、社会人講座を企画・展開したいと思っています。理工学や情報学といった内容にとどまらず、どうすれば物事の本質を見抜くことができるのだろうか?　正解がない問題に、誰もが納得できる答えをどうすれば見つけ出していくことができるのだろうか?　このような学びについても、他の教育機関などにも協力いただきながら、地域ニーズを踏まえつつ、本学園の特徴を最大限に生かして、地域産業界の人材育成に貢献したいと思っています。

松浦　今、社会の中で求められているのは、大きく業務を捉えていかにそれをデジタル化していくかといった「本質をつかむ能力」です。それには今いる職員の教育とスキルを持った職員の採用が必要となりますので、リカレント教育が静岡でなされるということについては非常に期待をしています。

また静岡の都心は昭和30年代に建てられた建物がまだまだ多く、建物更新の時期を迎えています。そういう意味ではまちで今ご商売されている方々にとってのリカレントも必要になってきます。それを、学生さんたちとワイワイガヤガヤー緒にやっていただけたらありがたいと思います。

橋本　私どもでは、本学園の多様な学校の学生や生徒が地域の課題解決案を提案するという取り組みを行っています。このような活動をぜひ静岡市内でも展開していきたいと考えています。先ほどのお話にもありましたが、静岡市にどのような企業があるのか知り、その上で企業PRや商品販売の方法などを企業に提案する。そんな「若者目線」で企業と連携することを、この「地域協働センター」を中核にして進めてみたいと思います。

髙橋　企業が今後何を求めているかということになると、先ほども話にありましたが、「本質をつかむ能力」というものをまず得て、それをもって企業経営に生かしていくという形になるかと思います。そういう意味では、リカレント、リスキリングを通して静岡の経済界、産業界の力をアップしていただきたいと思っています。

ひとつ懸念があるとすれば、会社に勤務している我々がリカレント教育のために例えば半年休職することができるのか。できるとしても、おそらく人数的にそれほど多く出せないのではないのかなという点があります。　また、DX、CXを促進する上では、むしろリスキリングによる企業の底上げが求められているのではないでしょうか。

橋本　社会人教育におけるニーズは企業によって異なりますので、当該企業にとって必要な「社会人教育用プログラム」にカスタマイズして提案することは大切だと感じています。

それから「社会人教育を受講したが、会社でまったく評価されない」という話を聞いたことがあります。これはお願い事になりますが、例えば、受講証明証などをもって受講者のインセンティブにつながるといったしくみ作りを、商工会議所から会員企業に啓蒙していただけるとありがたいです。そういう関係が構築できれば「地域協働センター」においても、受講者にとって、より価値を高める形態でのカリキュラム開発を進めることができるように思います。

髙橋　カリキュラムの内容によるかとは思いますが、商工会議所の立場からするとそういうものは間違いなく求められています。費用対効果の部分もあるのですが、それが妥当であるならば、そういった啓蒙の場も設けやすいと思っています。

■人と人をつなぎ協働しながら、ワンストップで地域の課題に取り組む

橋本　今後は「地域協働センター」の拠点を県の東部エリア、西部エリアにも設け、県全域をカバーした地域間連携の推進役にもなっていきたいと考えています。多くの関係者に寄り添い、結びついて、先ほどありましたワイワイガヤガヤでワクワクする活き活きとした地域社会の実現に向けた取り組みを進めていきたいと思っています。古めかしい言葉かもしれませんが、「協働」によって地域の皆さんとの協力、連携、融合した活動を目指したいと思っています。

松浦　周りの職員をみていると、大学のアカデミックな雰囲気に気後れをして、気軽に相談できないという感じがしています。今回「地域協働センター」という看板がかかるということで我々にとっては、気軽に相談できる窓口という認識ができるだけでも相当違うだろうと思っています。その中に多様な先生方がいるということがわかってくると、いろいろな地域連携が生まれてくるものと思います。

髙橋　今回はどちらかというと大学の話が中心になったと思うのですが、御幸町のキャンパスには「静岡デザイン専門学校」さんも入るようですから、デザイン系の学生さんともどういう形でお付き合いができるのか、わかりやすく広報していただけるとありがたいです。例えば企業が製品を作るにあたっても、デザイン専門学校の生徒さんなら自由な発想でたくさんのアイデアが出せるのではないか、と思います。

橋本　「御幸町キャンパス」内には「静岡デザイン専門学校」も多くのフロアを利用して教育や地域連携の取り組みを進めていきます。本学園の情報を集約させながら「地域協働センター」にワンストップ機能を持たせ取り組みを進めていくイメージです。

また、「御幸町キャンパス」という建物ができたとしても、そこに集うのは人ですし、その人たちをつなげていくのも人です。「地域協働センター」では、どのような人がキーパーソンとして適任だと思われるかご意見をお聞かせいただけるとありがたいです。

松浦　例えば役所が審議会を立ち上げるときに、これまでは理工系の場合、東京の先生をお呼びするようなケースも多々ありましたので、そういう場面で相談できる人を期待しています。逆に我々が地域のキーパーソンをご案内することもできると思っています。静岡の街を良くするために活動している企業やグループなど面白い方々がいらっしゃるので、その方々と連携されることで、活動の幅がさらに広がるのではないかと思います。

学校法人 静岡理工科大学 理事長
橋本 新平
SHIMPEI HASHIMOTO

橋本　デジタル化の波が押し寄せてきている現代、いかにして情報を共有化させることができるかが情報化社会をうまく機能させる分かれ目ではないかと思っております。情報を共有するということは、人と人、人と組織、組織と組織、組織と社会、その社会がそれを重ね海外へとつながるという意味で本当に大切なことなのではないかと思っています。

学校、特に大学という組織は教育から研究へ、研究から社会へとつなげる技術があってこそ存続しうる組織じゃないのかなと。そういう意味で今日このような形で、いろいろなお話を聞かせていただき、本当にありがたく思っております。既にいろいろと動き始めている「地域協働センター」ですが、多くの皆様に関わりを持っていただくことができるようになればと願っております。本日は誠にありがとうございました。

静岡理工科大学グループ

人と人、人と街をつなぎ みんなの夢や想いをカタチにするコミュニティスペース

地域協働センター

地域協働センターとは

「共同研究・開発」「リカレント教育」「フューチャーセッション」を事業の中核に据えたコミュニティスペースです。企業や各種団体など多様な立場の人が往来し、集い、めぐり逢い、共に学び、共に考え刺激し合って共に成長する場を創造します。
また、本センターが地域ニーズに対する相談窓口となり、その解決に向けた提案・設計や調整、さらにはプロデュースの役割も担います。これら多様な活動を、本学園が一体となって展開することで、「ひとづくり」「もの・ことづくり」「まちづくり」による地域の変革を目指します。

1 共同研究・開発
地域企業との研究開発や新製品の開発、様々な分野の専門教員による技術相談・技術指導、次世代を担う若者のアイデア実現に向けた支援を実践します。

2 リカレント教育
生涯に渡り学び続けることのできる学習機会の提供に加え、企業ニーズに基づくキャリアアップ講座や高度人材育成講座の開講、企業内研修等の受託事業を展開します。

3 フューチャーセッション
多様な立場の方に参加いただき、地域の課題や問題を様々な角度から見つめることで、それぞれの「想い」がカタチとなり、未来に向けた答えを紡ぎだす交流の場を提供します。

SEMINAR

リカレント講座キックオフセミナー

学び直しの力 ー現場力の向上を目指してー

2021.10/14(木) 14:00～16:30

企業における主役は現場で働く人達。そのうえで、企業が求めている人材は、自ら考え、誰もが疑わなかった現状の中から課題を見つけ出し、自分で解決する能力をもつ「自立型人材」。
このような人材を育成し、現場力の向上につなげる学び直し講座の開講に先立ち、今回、次のとおり、キックオフセミナーを開催します。是非、ご参加下さい。

講　演	今、なぜ“学び直し”が必要か
講演者	馬瀬 和人 氏（一般財団法人静岡経済研究所 理事長）
討　論	学び直し教育がもたらす価値
パネリスト	馬瀬 和人 氏（一般財団法人静岡経済研究所 理事長） 鈴木 武夫 氏（静甲株式会社 専務取締役） 北村 正平 氏（藤枝市長） 橋本 新平　（学校法人静岡理工科大学 理事長）
会　場	藤枝イノベーション・コモンズ
問合せ・申込	学校法人静岡理工科大学 藤枝イノベーション・コモンズ事務局 （藤枝市前島1-7-10 BIVI藤枝内）

TEL.0538-45-0108 FAX.054-639-7165
https://www.sist.ac.jp/social/inds/13.html

SIST REGIONAL COLLABORATION CENTER MEMBERS

浜松日本語学院	浜松未来総合専門学校	法人室	静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校	静岡産業技術専門学校	静岡北高等学校	静岡デザイン専門学校	星陵高等学校	沼津情報・ビジネス専門学校	沼津日本語学院	静岡理工科大学	静岡理工科大学	静岡理工科大学
藤岡 貴之	中島 康弘	村井 剛志	大石 麻美	梅原 孝仁	蔭山 慶行	久保田 香里	増田 智昭	宮城島 進一	村松 佑紀	久留島 康仁	池田 達哉	中村 翔

地域協働センタープロジェクトメンバー　大学社会連携課メンバー

学校法人静岡理工科大学「グループビジョン2030」

総合力と多様な教育で、心躍る未来を。

学校法人静岡理工科大学　法人本部／〒420-8538 静岡県静岡市葵区相生町12-18　TEL：054-200-3333　www.sist-net.ac.jp